

---

雪

菜花

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

雪

### 【Zマーク】

Z9641C

### 【作者名】

菜花

### 【あらすじ】

今月に入つて結構寒くなつてきた。またまた灰原の思いです。（  
「×哀では有りません）

今月に入つて結構寒くなつてきたせいか、外ではチラホラ雪が降つていた。

「あ、哀ちゃんー雪ー雪降つてるよー。」

「そうね、初雪かしら」

歩美の笑顔はいつもだけれど“初雪”と聞くと、とても嬉しそうにしゃべ始めた。

「そうだー帰りに米花公園で雪合戦しよ」  
歩美は手をポンと鳴らして提案した。

「いいですね」

「おひやひやせ

光彦・元太は嬉しそうに答えた。

「ねえ、哀ちゃんもコナン君もくるよねー五人じゃなきゃ楽しくないよー」

「ええ、そうね」

「……」

灰原は答えたものの、コナンは考え込んでいた。

「ねえ？」「ナン頬もぐるよね」

少し笑みの消えた歩美はコナンを覗き込んだ。

「あ、ああ」

半ば強引に言われ曖昧な返事を返した。

「やつたあ。じゃあ今日放課後、米花公園に皆でこいつね  
歩美の笑顔はハイテンションとなつた。

(雪……またこの季節が来たのね……)

灰原は窓から見える雪に向かつて呟いた。

放課後

「あーーー。真っ白ー。」

歩美のハイテンションは一向に収まる気配がなかつた。

「よーし! 米花公園まで直行だ!」

元太の合図で歩美・光彦は一斉に

「おーー」と答え早歩きになつた。

その後を涉々ながら灰原コナンは歩いた。

米花公園

「一人ともはやくう」

歩美の声で灰原と「ナンは早歩きでみんなのところと進んだ。  
皆が雪合戦している途中、灰原が『少し休みたい』っと行って近く  
のベンチへと腰をおろした。

(雪……)

フツとホテルでジンと遭遇した時を思い出した。

(あの時死んでいたら……この世から居なくなつていればこんな雪を見ても、悲しまないですむのに……)

下を向き雪が積もる地面を睨み付けた。

(雪の世界にいい思い出なんてない……雪になればまた奴らに遭遇する可能性がある……ねえ工藤君？ 貴方はこの雪が怖くないの？ どうして、お気楽に雪と戯れてるの？ 何も策をもたないの？)

そこまで考えた思考が止まつた。気けば灰原の横にコナンが座っていた。

「またあの口のようにジンに襲われる。あの時死んでいたら下らねえこと考てるんだろ？ 大丈夫だ。奴らに会うときは絶対手をはなさねえから！」

「どうして、そうなに絶対みたいな事いえるの？ おかしいわよ！ あなた……どうかしてるわ！」

手に力をいれコナンを思いつきり睨み付けた。

「絶対心もたねえと、前に進めねえんだよ！ ボジティップにいかねえと奴らと真っ向に戦えねえだろ！ お前は俺が守る。」

「ナンも灰原に田を向けた。

「ほんと、貴方おかしいわ。真っ向勝負したら貴方確実に死ぬわよ」

睨んでいた目を雪の方へと向け、コナンの答えを待った。

「んな事、今はわからねえよ。死ぬかもしれない……でも、精一杯の努力しねえうちには俺は死なない。」

コナンはそのまま灰原から目を離さず強い眼差しを灰原に向かた。

（どうしてだろ？ 貴方の言葉を聞くと心が落ち着く。今まで考えていた事が馬鹿馬鹿しくなつてる。貴方は何者なの？ まるでカウントセラーのようね）

「……原。 おい！ 灰原！ 聞いてんのか？」

「え？」

「『え』じゃねえよ。ほら『雪』のいい思い出作りにいくぜ？」

コナンは彼らの居る方を指さしてウインクした。

三人がキヤアキヤア遊ぶ姿を見て

「ありがとう」つと小さくでも力強い声でお礼をした。

コナンは少し顔を赤らめながら

「ほら、あいつら待ってるぞ！」つとだけいい、三人の輪に入つていつた。

灰原もたま四人の輪に入つた。『雪』のいい思い出を作るために…。

(後書き)

読んでくださいありがとうございます！

灰原の思い第2段です。11月に入つて寒くなつてきた事を切つ掛けにかけてみました。

いかかでしたか？

評価感想おまちしてます！ビシビシ送つてください（大したこと書いてないのに何期待してるんだ？この作者は！！）と、変な突っ込みを入れる作者である（苦笑）それでは…

2007・11・2

菜花

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9641c/>

---

雪

2010年12月31日20時49分発行